

<公開市民フォーラムの開催案内>

02 “地域共生型データセンター”の望ましいあり方を求めて！

<開催主旨>

本フォーラムは、AIデジタル情報社会における不可欠な社会基盤として、データセンター(以下、DC)が、地域社会に安心して受け入れられ、環境に配慮しつつ地域住民や自治体の信頼のもとで運営されるよう、“地域共生型DCの望ましいあり方”を模索することを目的として開催するものです。

生成AIの急速な技術進歩に伴うDC開発投資の拡大は、莫大な電力消費、環境負荷、近隣住民への影響、責任の所在が不明確な開発形態など、ともすると地域の健全かつ持続可能な社会発展を阻害しかねない状況をもたらし、社会の懸念が高まっています。

都市型データセンターあり方検討会では、昨年9月に発足以来、各地域のDC開発の共通課題を検討し、業界や行政からヒアリングを行うとともに、提言や要請を行ってきました。

日本データセンター協会(JDCC)は事業者に「地域共生」を意識した活動を進めることを強く求める「地域共生ガイドライン」を5月に発表。東京都は「まちと調和したDCにむけたガイドライン」を3月に策定し、環境性能や地域貢献を評価する認定制度や廃熱利用促進事業を開始するなど、地域共生の実現に向けた動きが地方自治体に生まれつつあります。そして、政府においても、生成AIの発展に伴う諸課題の検討や第2期AI基本計画の策定が進められ、DC関連特別法の制定や一定の規制導入を期待する世論が高まりつつあります。

第一部では、大規模DCの開発計画をめぐる各地の状況及び課題について、地域住民の不安や懸念の声に真摯に耳を傾けます。

第二部では、DCが地域社会と共生していくための諸課題の解決に向けて、事業者団体、シンクタンク、行政機関、各分野の専門家によるパネルディスカッションを行います。

この公開フォーラムが、今後のわが国の“地域共生型DC”の実現に向けた重要な第一歩となることを念願し、多数の皆さまのご参加を心からお待ち申し上げます。

<公開市民フォーラムの開催案内>

“地域共生型データセンター”の望ましいあり方を求めて！

- 〜〜
- 主 催：都市型データセンターあり方検討会
 - 共 催：立教大学環境学部・立教大学共生社会研究センター
 - 日 時：2026 年 10 月 03 日（土）：13:20～17:00（13:00～：会場受付）
 - 参加費：無料（予約不要）
 - 会 場：立教大学 池袋キャンパス 8号館 8101

<https://vc.rikkyo.ac.jp/facilities/ikebukuro/av-kizai/78101.html>

（【最寄駅】JR 山手線 池袋駅 下車、西口から大学正門まで徒歩約 7 分）

〜〜

○開催プログラム：

<総合司会進行>：

今川草乃花（都市型 DC あり方検討会事務局／大阪大学大学院人間科学研究科）

13:20～13:25：開会挨拶・寺西俊一（都市型 DC あり方検討会座長／一橋大学名誉教授）

13:25～13:30：共催挨拶・小林潤司（立教大学環境学部長）

杉浦郁子（立教大学共生社会研究センター長）

13:30～14:40：<第Ⅰ部>：日本のデータセンター建設地域における関係住民からの声

昭島、日野、小平、塩浜、千石、印西、白井、柏、つくば、さいたま、日高、南砺、など

休憩（20 分） 「ブース展示」

15:00～16:50：<第Ⅱ部>：パネル討論－“地域共生型データセンター”の実現に向けて

<司会進行・モデレーター>：上田昌文（NPO 法人市民科学研究室代表）

・基調問題提起：伊瀬洋昭（都市型 DC あり方検討会事務局／日野市環境審議会委員）

<パネル討論の発言者>（50 音順）：

・糸長浩司（元日本大学教授／都市農村計画・エコロジカルデザイン）

・内田聖子（アジア太平洋資料センターPARC 共同代表／ジャーナリスト）

・下山憲治（早稲田大学教授／行政法学）

・原科幸彦（横浜商科大学学長・東京科学大学名誉教授／環境計画学）

・松尾 豪（エネルギー経済社会研究所代表取締役／エネルギー産業論）

16:50～17:00：閉会挨拶・二ノ宮リムさち（立教大学環境学部教授）

<本件に関するお問い合わせ先>：

「都市型データセンターあり方検討会」事務局

urban.datacenters@gmail.com（受付は、メールのみ）